

梅津 同性の研究者がほとんどいない分野ですが、女性だからと困ったことはありません。せいぜい女子用トイレが少なかったくらいですね。逆に珍しいためか、学会などですぐに名前を覚えてもらえるメリットがあります。

内田 私の分野も女性が少ないおかげで偉い先生にも真っ先に覚えてもらえますね。

久保 目立つから招待講演に選ばれやすいのかなと、ちょっとり得をした気持ちになったことがあります。

内田 でも、普段は性別を気にすることはほとんどありませんね。

久保 男性の多い職場ですが、むしろ私が率先して力仕事をたくさんこなしているような…。

内田 そうそう、ボンベを転がしたり。

岡田 私のところでも女子が力仕事をしているようです。女性が多い生命科学分野の特殊事情かと思っていましたが、どこも同じなのですね。女性研究者のハンディといえば、やはり家事や子育てに時間を取られてなかなか研究に没頭できず、集中して一気に成果を出すのが難しい点ですね。

梅津 若い頃は夜遅くまで研究していましたが、育児中はそれができず厳しいものがあります。

岡田 女性は急がず、コツコツと努力し、長い時間をかけて成果をあげるマラソン型がうまくいくのではないのでしょうか。

— 皆さん本当にしっかりされていて、むしろ女性ならではのメリットをより多く感じているところが素晴らしいと思います。

自分にしかできないことを増やす

— 働く女性にとって、出産や育児、親の介護といったライフイベントは大きな問題ですが、どのようにされましたか。

内田 長女を出産したのは大学4年のときでしたが、すでに大学院進学は決まっていたので、母の応援もあったので、特に休学もせず修士課程へ進みました。子育てと学生生活の両立は大変でしたが、先生方のサポートで、続けることができました。

久保 内田さんの武勇伝は実は東大では有名な話で、なんてすごい人がいるんだ

ろうと思っていました。

岡田 何か当時の逸話はありませんか。

内田 出産10日後に卒論の発表会が迫っていたので、病院のベッドで発表用のスライドをつくりましたね。

岡田 それはまさに武勇伝ですね。結局産後は休めたのですか。

内田 学生ですから産休制度というものもなく、3週間くらいで研究を再開しました。子どもを持ってから心がけたのは、自分にしかできないことを増やすこと。独自の技術や研究を確立すれば、息長く必要とされますから。次女を出産したのは自分の研究室を持ったばかりの大変な時期でした。研究室に行けないため、産後まもなくからメールで仕事のやりとりをしました。メールやウェブが普及していて本当に助かりました。困ったことは、企業なら産休中は代替りの人を配置するところを、大学では授業の代役が頼めなかったことですね。

梅津 独自性の高い仕事をしている内田さんならではの苦労ですね。

女性も遠慮なくキャリアを選ぶには

岡田 私も研究室を持つてからの出産で、内田さんとよく似ていますが、逆に私は「自分にしかできない仕事を減らす」ことを考えました。頼めることは周囲にお願

※JSTライフイベント支援制度

2週間以上の連続した休暇を必要とするライフイベントに対し、個人型研究である「さきがけ」では週単位で研究を中断し、研究期間の延長が可能。研究費も当初の計画どおり使用できる。制度全体はHP (<http://www.jst.go.jp/gender/unyyou.html>) に掲載。

また、さきがけ「なでしこキャンペーン」で先輩研究者のメッセージを公開中 (<http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/nadeshiko/>)。

いして、仕事を厳選したのです。

— JSTのライフイベント支援制度※を使われていかがでしたか。

岡田 さきがけ研究を3カ月間中断しましたが、研究期間の延長はとても助かります。ただ、ライフ系は飼育や培養作業の継続に研究補助者の雇用が欠かせないのですが、中断期間はさきがけの研究費が使えなかったため、当時いた京都大学の制度で何とかまかさないました。中断していても研究環境の維持費を払える柔軟性があればさらに助かりましたね。

梅津 研究員時代の5年間で、3回の妊娠・出産を経験しましたが、女性がほとんどいない職場なので、産休という制度自体がありませんでした。リーダーと相談して、上の2人の時は産後4カ月ずつ、第3子では2カ月休みました。まだ学生を指導する責任がない立場だったからできました。とはいえ、母は既に他界していて育児の助けを頼る先が少なく、2人目が生まれた直後は、もう研究は無理かもしれな



本当にやりたいことをあきらめないこと

久保 若奈 くほ・わかな

理化学研究所 田中メタマテリアル研究室 基礎科学特別研究員

2001年に東京理科大学理学部卒業。06年、東京大学工学系研究科応用化学専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、理化学研究所特別研究員を経て、11年より現職。同年より さきがけ研究者（「太陽光と光電変換機能」研究領域、研究課題「ギャッププラスモンによる光学的に厚く物理的に薄い高効率太陽電池の創製」）。



理想高く
モデルケースに
なりたいと
思うこと



梅津 理恵 うめつ・りえ

東北大学金属材料研究所
特異構造金属・無機融合高機能材料開発
共同研究プロジェクト 准教授

1992年、奈良女子大学理学部卒業。奈良県立医科大学精神科医局研究生を経て、2000年に東北大学大学院工学研究科材料物性学専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、CREST研究員、東北大学金属材料研究所助教等を経て、13年より現職。12年からさきがけ研究者（「新物質科学と元素戦略」研究領域、研究課題「新規高スピンドクタリ材料の探索と原子配列制御に伴う電子状態と物性変化」）。

と思ったことがあります。サラリーマンだった夫が自営業になり、家事や育児をかなり負担してくれたおかげで何とか乗り越えました。

久保 最近は働きながら子どもを育てることへの理解が広がりつつあるのではないのでしょうか。私は今のところ子どもを持たなくてもいいと考えています。以前は、結婚も出産もしたいと考え、いつ産もうかそれに合わせどう研究を縮小しようかと思いついて悩んでいました。親の介護もあり、優先順位を考えた末に、出産は必ずしも今、自分が果たしたいことではないと気づきました。何よりも良い成果を出せる研究者になることが一番だと考えています。

自分のなかで決着がついてからは研究にすっきりと集中できるようになりました。男性研究者はライフイベントに左右されて悩むことも少ないかと思うのですが、女性も遠慮や躊躇なくキャリアを選択できる世の中になることを願っています。

限られた時間でも 育児は大切に

— 皆さんが苦勞してつかんだ、家庭と研究を両立させるコツは何でしょうか。

内田 下の娘は私が帰宅するころにはもう寝ているので、朝のひとときを生かして、本を読んだり、一緒に遊んだりします。帰宅後の1時間は上の娘とのコミュニ

ケーションにあてています。高校で進路を考える時期なので、相談に乗ったり勉強を見たりする時間はとても大切です。「将来は理系の働く母親になる」と話してくれたので、私の生き方を肯定してくれているとわかりホッとしました。

岡田 保育園に合わせた暮らしで、時間がまったく足りないのですが、自宅、保育園、職場が近いので、移動にかかる時間は最小限です。また時には実家の母を呼びよせて、何とかやっています。

梅津 スープが冷めない距離に保育園や学校・職場が揃っていることは必須条件ですね。授業参観等で仕事の途中に抜け出して行っても、また研究室に戻れます。12年間続いた3人の子どもの保育園生活をやっと卒園し、使える時間が増えたので、研究も「ようやく、これから」です。

久保 毎日育児をしている皆さんのタフさと効率的な時間のやりくりには頭が下がります。多くの男性は、子どもが小さくてもどこへでも赴任して、時間を気にせず大きなプロジェクトにも参加できますが、そこが違うところですね。

岡田 確かに週に1日か2日でも、遅くまで働ける日がほしいと常々思います。

梅津 それはいいですね。家族に相談してそんな日を作ろうかしら。（一同賛同）
— 学会などの出張はどうされていますか。

内田 下の子どもがまだ1歳と小さいので、今は1泊までと決めています。

梅津 私は、外国での学会にも子どもを連れて参加していました。小さいころは、夫の母に観光がてら現地での日中の子守りをお願いしたこともありました。最近はずいぶん子どもを学会に誘っても「つまらないから行かない」なんて断られてしまいますけれど、連れて歩ける丈夫な子どもたちで助かりました。

岡田 分子生物学会では託児所を用意してくれるようになり、助かっています。さきがけの合宿形式の領域会議にも連れて行っていますよ。3歳になり、「おばあちゃん来ると、母が不在になる」という公式がわかってきて不機嫌になるのが困りものです。

— 子育てで仕事のやり方は変わりましたか。

内田 子育て期間は時間が足りないので、研究したい気持ちが先走ると、無理をしがちです。私も2人目が生まれてから、救急車のお世話になったことがあります。体調を崩すと周りに迷惑がかかるので、

「どんな毎日を送っているの？」

* 小さい子どもがいる
岡田さんの場合

- 6時 起床。
- 7時半 子ども（3歳）を保育所へ送り、大学に向かう。
- 18時すぎ 保育所へお迎え（延長保育や家族の迎えを頼むことも）。夕食の惣菜を買って帰宅。夜は子どもとゆっくり過ごす。締切前は子どもを寝かせてから、さらに仕事をするこも。

* 一日の大半を研究にあてている
久保さんの場合

- 7時半 起床。
- 9時には研究室へ出勤、スタッフとの打ち合わせから。
- 22～23時ごろまで実験・研究を続けることが多い。帰宅してから家で遅い夕食をとる。

無理をしない範囲で頑張ることが大切だと気づきました。以前は徹夜していた授業の準備なども、早くから計画的にやっています。育児も、自分で何でも頑張るのではなく、家族に甘えられるところは甘えるよう意識を変えました。

梅津 子どもも急に熱を出したり、いつがあるかわからないので、時間的なゆとりをもって仕事を進める必要がありますね。

岡田 私は、家族の協力はもちろんのこと、大学や自治体の育児支援制度など、使えるものは何でも使っています。

梅津 最近、育児は母親だけの仕事ではないという社会の理解が進んできました。若い男性研究者が、子どもの食事やお風呂の世話をしてから研究室に戻ったり、保育園のお迎えのために早く帰ったりすることも増えてきました。

— 家族の協力や体調管理、優先順位などの観点からライフイベントに真剣に向き合ってこられたことに感じ入りました。

専門性の高い研究職は女性向き

— 理系の女性研究者が少ない現状について、どのように考えますか。

岡田 生命科学は理系の中でも比較的女性が多い分野で、大学院生の3～4割を占めています。ところがポストクの段階で激減し、研究職にはほとんど残りません。やはりライフイベントとのやり繰りや葛藤が大きいのだと思います。

内田 化学系も学部的女子学生は2割近くいるのに、博士課程に進む女性はわずかです。ポストクまで行ってから、「続けていくのは難しい」とやめてしまう場合もあります。

梅津 物理系、特に金属はもともと女子学生が少ないのですが、女性を増やす動きはあります。最近では大手企業が工学系女子を欲しがっているため、大学院に進学すれば就職のチャンスはかなり多いと思います。

久保 産休制度などが充実した企業に就職する女性研究者が多いようですね。公的な研究機関では期限付きの雇用が多くて、定年まで働ける正規の仕事になかなか就けないことも、将来の不安につな



ひとつ譲れない柱を決めて、後は柔軟に

岡田 由紀

おかだ・ゆき

東京大学分子細胞生物学研究所 特任准教授

1998年、北海道大学獣医学部卒業。2002年、北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了。CREST研究員、日本学術振興会海外特別研究員、ハワード・ヒューズ医学研究所 (PD、リサーチスペシャリスト)、京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット特定助教等を経て、12年より現職。09年よりさきがけ研究者 (「エピジェネティクスの制御と生命機能」研究領域、研究課題「精子細胞の分化・成熟過程におけるヒストン修飾の重要性の解明」)。



がっていると思います。

梅津 その点は、男女を問わず厳しいですね。ただ、昔のように「女の子が理系なんて」という偏見は、今は少なくなりましたよね。

岡田 それが、実は相談に訪れる女子学生の半分くらいは、「修士進学に親が反対する」など周囲の理解をどう得るかについてのものが多いのです。職の不安定さや、婚期の遅れを心配しているようです。私は、「いつまで挑戦を続けたいのか、具体的な目標を示して説得してはどうか」と助言しています。

内田 むしろ女性にこそ理系をお勧めしたいですね。専門性が身につくので、ライフイベントがあっても、それに左右されず復職しやすいと思います。

久保 先日、研究所に見学に来た女子高校生たちが私たちを見て、「普通の人なんですわー」と驚いていました。女性研究者に会う機会がないため、ガリ勉のような偏見があるようです。私たちが女子高校生や大学生、ご両親と接する機会をもっと増やせば理系を進路に選択する可能性が高まるかもしれません。

— 最後に、さきがけ研究者になったの感想をお聞かせください。

梅津 研究者の「登竜門」であるさきがけの一員になれたことを誇りに感じています。周囲の祝福も嬉しく、准教授昇任の

後押しにもなったことと思います。同時にプレッシャーも強いので、同期の皆様には負けない成果を上げたいです。

久保 「さきがけは産休もとれて余裕があつてうらやましい」と言われますが、実際は制度を利用しても悠長ではないはずで、採択後はプレッシャーと責任感でさらに多忙になります。さきがけの女性が軒並みタフなのは、そこでめげない賜物かも知れません。私も男性と比肩する質の高い研究をしなければと強く感じています。

岡田 意識しているのは、男性研究者に女性の潜在力を認識してもらうことです。ライフイベントを経る可能性が高くても女子学生や若い女性研究者の将来的なポテンシャルを考慮して登用するようになれば、女性研究者の増加に結び付くでしょう。

内田 女性だから採択されたと言われないうちに、しっかりした成果を残す責任が私の肩にかかっていると思います。博士号取得からの約10年でひとつのまとまったテーマができたので、さきがけを機に次の10年は、この新テーマに挑戦します。

— 皆さん、研究を全うするために前向きな気持ちで苦勞をのりこえてこられたんですね。後に続く方々に社会の理解や制度の発達をもっと必要だと思いました。貴重なお話をありがとうございました。